

今年の市政の最大テーマは教育問題です。



約 200 人の参加者を前に新年の挨拶をする中川市長
(1月4日/アステシアかさい)

明けましておめでとうございます。市民の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。私も市長に就任して5回目の新年交歓会を皆様とご一緒させていただくことができ大変嬉しく存じます。暫くお時間をいただき、昨年の市政の総括と今年の展望を申し上げたいと存じます。

昨年、加西市の環境活動が「新エネ百選」に選ばれました。日経「e都市ランキング」では全国20位になりました。また、地方都市として唯一、加西で映画『牛の鈴音』の全国ロードショーを実現でき、しかも、殆んどお金をかけずに加西をアピールし、国際交流協会の収入源を確保できた点などは、理想的な公民連携事業であったと思っています。

バイオマス事業はじめ、公募方式や職員採用制度、公民連携や事業仕分けなど、加西市の様々な先駆的取り組みが全国から注目され、視察も増えています。「北条の宿はくらんかい」「かさい夢フェスタ」など最近の地域イベントにおいても、市民の皆様の参画意欲が高まってきたように感じます。2年目を迎えたふるさと納税も前回の3倍、約1,600万円のご寄付をいただきました。財政が苦しい中、必死に頑張る加西市を応援してやろうとの市外在住の加西縁故者などからのご厚意に感謝しております。

昨年の市政の大きな課題は、地域医療をいかに守るかでした。お陰様で加西病院は、去る12月に地方公営企業法の全部適用となり、山邊院長を特別職の事業管理者にして権限を委譲し全適移行を果たしましたので、今年の最重要テーマは教育問題であると考えています。校舎の耐震補強、学校の再編、そして教育の質向上など、ハード・ソフト両面での教育環境の整備が大命題です。

児童生徒数の減少と税収伸び悩みの中で、質の高い教育を実現しようとするなら、やはり幼稚園・保育所の一元化・民営化、そして小中学校の統廃合は避けて通れません。幼保小中一貫教育ないしは中高一貫教育、さらには私学誘致なども選択肢として考えているところです。

特色があって質の高い教育が提供できれば、加西市の人口増や定住に繋がります。また多様な人材を育てることが地域力と市民力の向上にもなりますが、肝心の加西市の財政は平成22年度と23年度が最も逼迫し、まさに瀬戸際を迎えています。市役所の経営資源が限られている中、事務事業の「選択と集中」を進め、重要度・緊急度の高い仕事に予算と人員を優先配分しなければ、財政が立ち行かない状況です。半面、市民参画で可能なものについては、市民自ら取り組んでいただくようお願いいたします。

変革を怠り、環境変化に対応できない者は淘汰され、衰退していくのは歴史が証明するところです。もはや加西市役所も変革・改革を躊躇してはならない状況にあります。

夏には三洋電機㈱の新工場が稼働し、今後、世界各地から加西への来訪者が増えるものと思われます。東産業団地への新規工場立地も決定しましたし、旧ジャスコ跡地への大型店の出店計画も進んでいます。行政としても、教育の質向上やホテル誘致など、質の高い多様な都市サービスが加西で提供できるよう公民連携手法を活用するなどして、ハード・ソフト両面のまちづくりに取り組む所存です。

今年も「変革する自治体」として常にチャレンジし、市民の皆様には改革の成果をさらに実感していただけるよう虎のように頑張りますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、2010年が素晴らしい一年となりますように、そして、市民の皆様方の益々のご健勝ご多幸を心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

(平成22年新年交歓会での市長挨拶)



市役所の新年仕事始め式では、「いつも問題意識をもって、自らの位置づけや担当業務の意義を考えながら、納税者の立場になって職務にあたるよう」職員に訓示

市長問責決議と議会改革への期待

去る12月の市議会本会議で、「議会での市長の言動が許しがたい」などと私に対する問責決議(案)が提案され、賛成12名、反対5名で可決されたことは誠に残念です。問責決議(案)を提案する前に、そもそも決議に値するような内容か、事実関係を十分に確かめられておらず、余りにお粗末な決議で、提案された議員と賛同された議員各位の見識を疑わざるを得ません。

私が、神聖なる議場で市政と直接関係のない週刊誌を読んでいた、音楽でも聴いていたというなら問題でしょうが、議会審議に耳を傾けつつ議会答弁用のメモを書いたり、閉会の挨拶文を推敲することのどこに問題がありますか。

広報の原稿チェックや決裁書類にも目を通したことは事実ですが、いずれも締め切りに迫られて止むなく目を通してあるものであることは議員各位にもご理解いただきたいです。議会にはちゃんと出席し、各議員の質問や意見も漏れなく聞き止めて、必要な答弁は遺漏なく行っています。したがって何ら議会審議の障害となっていませんし、私が議会審議を無視して一日中、全く別の仕事をしていたものではありません。

また、決議文には、「市長は議案書を開けようとしめない」との記述がありますが、そもそも議案書は執行者側が用意し、それを見て審議するのは議員の仕事です。細かな話は担当の部長課長が答弁しますので、私は議案書や予算書を必要に応じて見れば良く、個々のページを逐一開かずとも対応できます。むしろ市長には総括的な答弁、市政上の見解や大方針を質問される訳ですから、私が議案書をその都度見なかったとしても、何ら指弾されるべき事ではないと思います。

そして前回の議会で否決されたり、今議会で否決されそうな懸案の重要議案について、「次の議会で再上程したい」と市長が当該議案の重要性や意気込みを語るのどこが議会軽視なのか私には理解できません。先の9月議会で不同意となったままで12月議会に上程できなかった教育委員の選任などの重要議案を、「1月に臨時議会を開いてでも審議していただきたい」と申し上げたことのどこが問題でしょう。当面する政策課題や市長方針を示して、議員や市民の皆様にご報告することは市長として当然のことと考えます。

議員から出された質問に市長が答える行為それ自体を問責するなら、そういう質問をする同僚議員を先ず制止すべきであり、同僚議員の質問を放置しながら、それに答えた私を今更なせ問責決議をされるのか真意がつかめません。

私の議会答弁の言葉尻だけをとらえるのではなく、答弁全体の主旨や脈絡を市民の前に明らかにしていただいた上で問責に値するか否かを議論されるべきです。市民と加西市の将来のために上程している議案を今後も理由にならない理由を上げて平然と否決されるなら、それは議案の是非ではなく市長不信任に等しいと思わざるを得ません。

2年7ヶ月前の市長出直し選挙以降も議会は何らケジメをつけられていません。先ず過去を引きずらないで建設的に議論し、その上で私に重大な問題があれば問責決議をしていただいで結構です。地方自治は議会の議決に基づいて運営されるものであり、その意味で私が議会を軽視していることはあり得ないことです。むしろ実り多い議会となつていただくため、私はこれまで何度も議会改革の必要性を提言してきたところです。

まるで担任の先生が小学生に箸の上げ下ろしまで注意するかのよう、議会での私の態度や発言を云々される前に、私の問責決議に名を連ねられた議員各位には、効率的かつ建設的で市民本位の議会審議を改めてお願いする次第です。そのためには、日常の政策研究が不可欠で、議員各位には市長以下の執行部を先導するような議会審議や議員活動をお願いするものです。率直に言わせていただければ、議会運営についての加西市議会の「常識」は、どうも市民感覚や世間の常識から乖離しているように思います。

市政を改革し加西市を良くするのに、市長権限でできることには限界があります。なぜなら市長は、議会で承認された決められた予算と人員の中でしか執行できないからです。更なる行財政改革のためには議会改革や議会運営の効率化が不可欠です。議員定数の削減、議員報酬カットなどは多くの市民が期待しているところで、先の市民アンケートの結果(加西市議会ホームページに掲載されています)は市議会にとって誠に手厳しいものであったと思います。それに応えることなく、いつまでも問題を先送りするなら、市民からソッポを向かれてしまうでしょう。

会派の思惑や議員個人の好き嫌いではなく、市長の公約やマニフェストに照らしながら、市長の実績や出来不出来について正当に評価し、市民のための改革を促すことが市議会の重要な役割の一つではないでしょうか。議会基本条例の制定など議会改革に期待しています。

(市長)